

- ・日 時：平成 22 年 9 月 16 日 (木) 14:00～18:30
- ・場 所：JGS 会館会議室
- ・出席者：太田、小椋、赤木、岸田、菊池、佐藤、高橋、重村、伊藤、吉嶺、清木 (西村代理)、
吉野・石井 (神奈川県 G)、橘、沓澤、末岡、青木 (事務局)
- ・欠席者：田矢、金尾、東畑、瀬古、清水、西村、若井、王、荏本、石原、國生、松島、後藤、玉手

1. 前回議事録 (7/15) の確認 【別紙 - 1】

2. 今期の体制

今回報告事項なし

3. 関連行事予定

公益法人地盤工学会登記：平成 22 年 11 月 1 日 (月) ??

Geo-Kanto2010：平成 22 年 11 月 4 日 (木) ～5 日 (金)

第 1 回評議員会：平成 22 年 10 月 20 日 (火) 15:00～16:00 (開催日見直し?、時間未定)

→本日の協議の結果 11/19(金) 16:00～17:00 とする.

臨時支部総会：平成 22 年 ○月 ○日 () 16:00～16:30 (開催日?、時間未定)

→本日の協議の結果 11/19(金) 17:30～18:00 とする.

特別講演会：平成 22 年 10 月 20 日 (火) 17:00～18:00 (開催予定)

→来年 4 月へ延期をお願い (支部総会の際、都合があれば依頼する).

本部臨時総会：平成 23 年 1 月 14 日 (金) ??

4. 本部からの連絡・検討依頼事項

- (1) 支部決算準備について 【別紙 - 2】
- (2) 県グループ中間決算お願いについて 【別紙 - 3】
- (3) 臨時支部総会ご案内について 【別紙 - 4】

10/1 公益法人登記は無理ということが本日、最新の情報として判明した。

内閣府から通知を受けた後、2 週間以内に登記、その後 1 ヶ月以内に支部臨時総会を要する。

認定通知の日は依然未定であるが、11/1 の登記になれば、10 月末で社団法人としての決算が必要。

臨時支部総会では、決算報告と共に事業報告もしなければならない。(事前に会計監査必要)

あわせて公益法人としての初事業年度 (仮に 11 月～3 月) の予算および事業計画も議題となる。

- (4) 特別会員入会勧誘について 【別紙 - 5】

菊池幹事長、岸田部長より経緯の説明があった。

会員数の減少に歯止めをかける方策について、特別会員入会勧誘以外のアイデアに関してにいろいろディスカッションがあった。

- ・ 若手や学生委員が参加、活躍 (成果が世の中に役立つ) できる研究委員会 (県 G での委員会ということも考えられる)
- ・ GeoKanto を今よりスケールアップし、例えば発表数 500 編、参加者 1000 人規模の多彩な内容、分野の発表を可能とし、多様な年代層の会員に参画できる場を提供する行事とする。(全国大会との企画の差別化)
- ・ 学会とのつながりが地盤工学会誌購読のみという会員比率も高いことを念頭に、内容の見直しについても検討すべき
- ・ 土木以外の建築や農業など異なる分野で土と関わる人を勧誘対象に加えてはどうか

今後各 G においても会員数対策について議論をお願いした。

会員動向について、基本的な整理検討を行うため、企画総務 G 提出の「データベース使用許可願

い」が承認された。

- (5) 「夏休み親子理科教室」の報告、今後について (H22. 8. 3, 本部主催) 【別紙-6】
本年度行事の実施状況を企画総務 G で視察、次年度以降の開催形態等は本部広報との協議を含めて検討する。
- (6) 平成 22 年度学会賞候補推薦依頼について 【別紙-7】
現時点では特に推薦する案件等の意見なし。
5. 支部からの周知・連絡事項
- (1) 関東支部メーリングリスト-関東支部の行事案内案について 【別紙-8】
企画総務 G 検討案で了承された。
- (2) 藤田圭一 元会長ご逝去について 【別紙-9】
- (3) H22 年度予算執行状況 (8 月末現在) 【別紙-10】
6. 行事等開催結果、進捗状況の報告
- (1) 栃木県高瀬トンネル建設事業に関わる現地見学会 (H. 22. 7. 23, 栃木県 G) 【別紙-11】
- (2) 東京外かく環状道路 (外環) 千葉区間の見学会 (H22. 7. 29, 千葉県 G) 【別紙-12】
- (3) 椎坂トンネル現場見学会 (H22. 8. 4, 群馬県 G) 【別紙-13】
- (4) 中部横断自動車道醍醐山トンネル建設事業に関わる現地見学会
(H22. 8. 6, 山梨県 G) 【別紙-14】
- (5) 特別講演会「東京スカイツリーの構造設計について」(H22. 8. 24) 【別紙-15】
以上、開催済みの行事について報告。
- (6) 「実務者のための戸建住宅の地盤改良・補強工法 -考え方から適用まで-」講習会
(H22. 9. 21, 主催: 日本材料学会. 協賛) 【別紙-16】
- (7) 地質リスクマネジメント事例研究発表会 (H22. 9. 24, 主催: (社) 全国地質調査業協会連合会. 協賛)
- (9) 特別講演会「ゼロメートル地帯の洪水について」(H22. 10. 20, 支部主催) 【別紙-17】
→10 月 20 日の評議員会開催がなくなったので、お詫びして、4 月へ延期をお願い (総会のとき)。
- (10) “彩の国”市民科学オープンフォーラム-激甚化する気象災害に備える-
(H22. 11. 29, 主催: 埼玉大学地圏科学研究センター. 共催) 【別紙-18】
- (11) 第 2 回メタンハイドレート総合シンポジウム
(H22. 12. 02, 主催: 産総研メタンハイドレート研究センター. 協賛) 【別紙-19】
- (12) Newsletter 発行について
9 月末発行予定
以上、報告。
7. グループ別の報告事項
- (1) 会員サービス G 【別紙-20】
重村幹事から報告。
今年は、ソイルタワー改めソイルストラクチャーコンテスト (今年はソイルブリッジ) とする。
学生委員を入れて、活動していきたい (例えば、上記コンテストの企画など)。
→会員増強にも絡めて、是非、実施していただきたい。
「地盤技術者へのいざない」は、リクルート活動の一環というよりは、もう少し若年の学生
(学部 2, 3 年など) までを対象とした、地盤に関する魅力を伝える会とし、Geo 関東とは別の企画として行う。
- (2) 茨城県 G 【別紙-1】
松島幹事のメール内容を佐藤副幹事長が代理報告。

- (3) 栃木県 G 【別紙-21】
清木幹事から報告。
7月23日開催の見学会参加者は24名。
10月19日開催予定講習会は会費無料（協会等の協賛金で賄う）としたい。
会費無料の前例はないが、今回はこれで進めることについて了承。
→県機関等の官庁関係者が参加しやすい行事とすることについての意見交換があり、あらかじめ年度はじめに講習会計画を提示し、研修行事として認めてもらうような工夫もありえるのではないかとの意見が出された。
- (4) 群馬県 G 【別紙-22】
若井幹事準備の資料を佐藤副幹事長が代理報告。見学会は40名参加。
- (5) 山梨県 G 【別紙-1】
後藤幹事のメール内容を佐藤副幹事長が代理報告。
- (6) 千葉県 G 【別紙-23】
沓澤幹事から報告。
見学会は35名参加。
講習会は会場・印刷費用は県持ちで、地盤工学会は講師謝礼等のみ。会費無料。
県の職員等は出張として参加。学会は学会で参加希望者を集めて良く、会員であれば参加可。
県の建設技術協会の講演会の一枠を割り当ててもらっている（定例化している）。
→同様のことが他の県などでできないか（太田支部長）。
- (7) 埼玉県 G 【別紙-1】
支部発表会Gの項であわせて報告
- (8) 神奈川県 G 【別紙-1】
石井幹事より活動報告。「神奈川の地盤」について吉野幹事より説明。
原稿料の金額、扱いについて報告内容を確認し、了承。
Geo Kanto（11月）会場での販売には、間に合う見込み。
出版社との契約では著作権は2年。売り切れた後は、関東支部でWeb上での公開、オンデマンド出版は可能となる見込み（出版社でPDFを用意してくれる）との報告があったが、出版形態が変わるので、改めて転載許可等を取ったりしなければ成らない場合があるので、再度この点については県Gで確認する。
- (9) 研究委員会 G 【別紙-24】
伊藤幹事より幹事会ならびに各研究委員会活動報告、グループ内規案の提示、追加募集した年度内新設研究委員会の選定過程・結果について、来年度の募集について、他報告。
・内規はこれで問題ない。
・追加の幹事として、これまで幹事を出していなかった研究委員会から追加選任する候補者案が提示され、評議会で承認を得ることとする。
・新規委員会の選定について、今回採点表+合議により実施したことが了承され、今後の選定にも適用していくにあたり、地盤工学会の活動を広げるような新しい試みのもの（女性・若手の登用などを含む）を採否に関する特記事項として記載できるようにする（コメント欄に記載する）など、客観的評価に主観的な評価に関わる内容もあわせて、さらにバランスよい評価を目指して欲しいとの要望があった。
・BCP委員会の報告書の増刷に関連して、予算科目、増刷部数、価格等について確認
→増刷費用等を扱う予算科目は、「1.(2)2)①委員会成果の広報活動費」を今後用いることとし、次年度以降もこうした費用を要する場合は、この科目に予算立てする。
→また、増刷報告書の販売収入は「1.(2)1)支部報告書等販売収入」に入ることを確認。
→今回の販売価格は、増刷分と当初印刷分全体の収支として捉え、当初価格と同一とすること
で了承。

清木幹事より「関東の地盤」について報告.

地盤工学会本部との同一 ISBN、JAN コードの付与する記載方法などについて説明があった.

(10) 支部発表会 G 【別紙-25】

橘幹事より報告. 来年は山梨県での開催を予定 (セミナーハウス等で泊まりがけ開催もアイデアとして出ている).

県 G 開催一巡後, その先の開催方法について今後検討課題としていくことを確認.

今年度の Geo Kanto の開催準備進捗状況について報告.

(11) 企画総務 G 【別紙-26】

上記各議題の中で、関連事項を報告済み.

8. その他

(1) 退会・級変更届提出特別会員

国交省関東地方整備局常陸河川国道事務所 (4 級) ⇒ 6 月末をもって退会希望
(支出の見直し)

坂田電機 (株) (4 級) ⇒ H23 年 3 月末をもって退会希望
(学会との交流が密でなくなったため)

(2) 次回 (第 4 回) 運営委員会予定日 : 平成 22 年 11 月 19 日 (金) 14:00~15:30
終了後引き続き、評議員会、臨時支部総会開催を予定